

富山県立高岡南高等学校
令和7年度 必修科目シラバス

		ページ
国語	現代の国語	1
	言語文化	2
地理・歴史	地理総合	3
	歴史総合	4
公民	公共	5
数学	数学Ⅰ	6
理科	物理基礎	7
	化学基礎	8
	生物基礎	9
	地学基礎	10
保健体育	体育	11～13
	保健	14・15
芸術	音楽Ⅰ	16
	美術Ⅰ	17
	書道Ⅰ	18
外国語	英語コミュニケーションⅠ	19
家庭	家庭基礎	20
情報	情報Ⅰ	21・22

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
国語・ 現代の国語	1	2	現代の国語（数研出版）	新国語総合ガイド（京都書房） 頻出漢字マスター3000（尚文出版）
科目の概要 と目標	言葉による見方、考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。 - 文章の内容や構成、論理展開を的確に捉え、要旨や要点を把握することができるようにする。 - 様々な考え方を理解し、その理解を踏まえて、自分の思いや考えを深めることができるようにする。 - 自らの理解や考えを的確かつ説得力をもって他者に伝わるよう表現を工夫できるようにする。 - 言葉のもつ価値への認識を深め、読書に親しむ態度を養う。			
単元	学習内容	到達度目標		
「読む」と 「書く」	書けない日々	- 言葉を「書く」ことによって自身の思考が認識されることについて理解できている。 - 文章の論理展開や表現の特徴に留意して読み取ることができる。		
社会と文化	水の東西	- 本文の内容を踏まえて、日本と西洋の文化の違いについて理解し、自分の考えを深めることができる。 - 他の例をあげて日本と西洋の違いを考え、述べることができる。		
新しい視点	「わらしべ長者」の経済学	「わらしべ長者」の男の経済活動に対する筆者の評価を理解し、自分の考えと比較することができる。 - 文章の論理展開が理解できている。		
考えを表す	対比する 賛否を述べる セルフ・ディベート	- 物事を異なる立場から考え、肯定、否定それぞれの理由を考え文章にまとめることができる。 - 両者を比較、検討することで自分の考えを深めることができる。		
言語技術の 実践	プレゼンテーション	- 好きな書籍の魅力が効果的に伝わるよう工夫して発表できる。 - 発表内容を踏まえて、適切な質疑応答が行える。		
ことばの働き	ものごとことば	「ことば」の二つの異なる捉え方を理解できる。 - 言語の持つ「虚構性」について理解することができる。		
考えを表す	解釈を述べる 根拠を明確にして自分の 解釈を説明する	- 論文を参考にし、根拠を明確にして考えを述べることができる。 - 他者の意見と自分の意見を - グループで意見を交換し、考えを深めることができる。		
環境と科学	動物園というメディア	- 筆者の主張する、現代における動物園の役割は何か理解できている。 - 文章の論理展開が理解できている。		
認識の枠組み	他者を理解すること	- 筆者の言う「他者を理解すること」とはどのようなことを理解できている。 - 他者の理解について、自らの考えを深めることができる。		
考えを表す	問題を提起する 具体例を示す 意見を述べる	- 身近なところから問題を提起できる。 - 具体的な根拠をあげながら自分の意見を述べることができる。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
国語・ 言語文化	1	3	言語文化（数研出版）	完全マスター古典文法（第一学習社） 基礎から解釈へ漢文必携（桐原書店） 新国語総合ガイド（京都書房）
科目の概要 と目標	文学的文章を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力の育成を目指す。 ・古典に親しむために、文語のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ・作品の背景を踏まえ、内容を的確に読み取り、解釈できる。 ・時代が異なる複数の作品を読み比べて、理解を深めることができる。			
単元	学習内容		到達度目標	
説話	児のそら寝 絵仏師良秀 動詞		・古文に対して親しみを持つことができる。 ・登場人物の行動を用言に注目して整理することができる。	
近代小説	羅生門		・登場人物の性格・心理・行動を読み取ることができる。 ・場面から登場人物の心情の変化を読み取ることができる。 ・下人の行方についてどう考えるか討論することができる。	
漢文入門	訓読の基礎 漁夫之利 狐借虎威		・漢文訓読の決まりを理解することができる。 ・たとえ話が意味するところを理解できる。	
随筆	徒然草 「神無月のころ」ほか 形容詞・形容動詞・助動詞		・古典文法を理解し、的確に現代語訳できる。 ・作者のものの見方について自分の考えと比較しながら批評することができる。	
歌物語	伊勢物語 「芥川」「東下り」 助動詞		・基本的な古語の意味、用言、和歌について理解を深めることができる。 ・適切な現代語訳を行うことができる。	
詩歌	詩・短歌・俳句		詩歌における特徴的な表現上の効果について討論することができる。	
史伝	管鮑之交 先従隗始 鶏口牛後		・学習した知識を使って正確に現代語訳できる。 ・時代背景を踏まえて、全体の内容が把握できる。	
日記文学	土佐日記		・正確に現代語訳ができ、作品の虚構性、諧謔性が理解できる。 ・作者が仮名で書いたことの意図をくみ取ることができる。	
和歌	万葉集・古今和歌集 新古今和歌集		・和歌のきまり、修辞法について理解できる。 ・それぞれの歌に込められている情景や心情が理解できる。	
漢詩	漢詩 中国の詩 「登鸛鵲楼」ほか		・唐代の代表的な詩人についての知識を得る。 ・漢詩の決まりを理解し、詩に込められた思いを理解できる。	
思想	論語		本文の内容から孔子の思想、理想について考察、理解し、自らの考えを深める。	
軍記物語	平家物語 「木曾の最期」		・登場人物の人間関係、心情を読み取り、作品の面白さを味わうことができる。 ・敬語について理解する。	
近代小説	城の崎にて		・「死」に対する「自分」の心境の変化を理解できる。	

教科・科目	対象 学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・ 地理総合	1	2	高等学校新地理総合 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2025 (帝国書院)
科目の概要と目標	現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
第1部 地図でとらえる地理 情報システム 第1章 地図と地理情報シ ステム 第2章 結び付きを深める現 代世界	・地球上の位置と時差 ・地図の役割と種類 ・現代世界の国家と領域 ・グローバル化する世界		・日常生活の中でみられるさまざまな地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解する。 ・現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。	
第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と 国際理解	・生活文化の多様性 ・世界の地形 ・世界の気候 ・世界の言語・宗教 ・歴史的背景 ・世界の産業		・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解している。	
第2章 地球的課題と国際協 力	・複雑に絡み合う地球の課題 ・資源・エネルギー問題 ・人口問題 ・食料問題 ・都市・居住問題		・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解する。	
第3部 持続可能な地域づく りと私たち 第1章 自然環境と防災	・日本の自然環境 ・地震・津波と防災 ・火山災害と防災 ・気象災害と防災 ・自然災害への備え		・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。	
第2章 生活圏の調査と地域 の展望	・生活圏の調査と地域の展望		・生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取り組みや探究する手法などについて理解する。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・歴史総合	1	2	詳述歴史総合(実教出版)	新詳 歴史総合(浜島書店)
科目の概要と目標	近現代史を中心とする世界の歴史と、日本の歴史を相互に関連づけながら理解させ、人類の課題を多角的に考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
近代化への胎動	ヨーロッパの海外進出と市民社会 江戸時代の日本の対外政策		・ヨーロッパの海外進出とそれに伴う生活革命、市民社会の形成について理解する。 ・江戸時代の社会や鎖国下の対外関係について理解する。	
欧米の市民革命と国民国家の形成	イギリス産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン		・産業革命の意義とイギリスで始まった要因、その後の社会への影響について理解する。 ・アメリカの起源と独立戦争に至った経緯、さらには独立宣言と合衆国憲法から独立戦争の意義について理解する。 ・フランス革命勃発の要因とその変質の過程を理解する。また、「革命の子」ナポレオンの登場とその後のヨーロッパ社会に与えた影響について考察する。	
アジアの変容と日本の近代化	アヘン戦争の衝撃 ゆらぐ幕藩体制 開国 幕末政局と社会変動 新政府の成立と諸改革 富国強兵と文明開化		・アヘン戦争の概要を理解し、この戦争が中国における近代の始まりとされる理由について考察する。 ・幕府の動揺から開国、幕末の政局から、日本の近代化への胎動について理解する。 ・明治新政府の諸政策が、その後の日本の近代化に与えた影響について考察する。 ・日本の近代化の過程で画定していく国境と、今日に至る領土をめぐる諸問題について考察する。	
帝国主義の時代	帝国主義と世界分割 帝国主義期の欧米社会 条約改正 日清戦争 日露戦争から韓国併合へ 日本の産業革命と社会問題		・「帝国主義」を「資本主義」との関連づけて定義し、欧米諸国が19世紀後半からアジア・アフリカ諸国の分割に乗り出した過程を理解する。 ・明治時代後半の日本が、立憲制を整え、条約改正を達成した過程を理解する。 ・欧米諸国への比肩をめざしていた明治政府が、日清戦争・日露戦争の勝利とともに、韓国併合に象徴されるように帝国主義への道を歩み始めたことを理解する。 ・日本において展開した産業革命の実態について理解する。	
第一次世界大戦と大衆社会	緊迫する国際関係 第一次世界大戦 ロシア革命とシベリア出兵 大戦景気と米騒動 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 戦間期の欧米		・第一次世界大戦の原因と性格、戦争がもたらした社会の変化を理解する。また、戦後のヴェルサイユ・ワシントン体制と国際協調・軍縮の機運、アメリカの繁栄をその後の歴史と関連させながら理解する。 ・史上初の社会主義革命であるロシア革命の推移とその意義について理解する。 ・第一次世界大戦が日本にもたらした影響、また、米騒動・や政党内閣の成立を軸に、大正時代の日本を概観する。 ・「戦間期」の欧米社会の動向を理解し、この時代の世界史上の意味を理解する。	
経済危機と第二次世界大戦	世界恐慌 ファシズムの時代 満州事変と軍部の台頭 日中戦争 第二次世界大戦とアジア 太平洋戦争 戦争と民衆 敗戦 国際連合と戦後世界 戦後と占領の始まり 民主化と日本国憲法		・世界恐慌発生 の要因と概要を把握し、これがファシズム台頭の契機となったことを理解する。 ・日本の軍部の大陸侵略と日中戦争勃発の経緯を理解する。 ・第二次世界大戦とアジア太平洋戦争の経過とそれぞれがもたらした惨禍について理解する。 ・戦争を民衆の視点からとらえる。 ・日本にとっての「敗戦」の意味を考察する。 ・国際連合の発足と、戦後の国際秩序の成立経過を理解する。 ・GHQによる戦後の日本の占領政策について理解する。 ・戦後の日本の民主化を戦前と比較してその相違を理解する。また、日本国憲法成立の経過とその特色を理解する。	
冷戦と脱植民地化 多極化する世界 グローバル化と現代 (戦後史)	戦後の冷戦の開始から多極化、冷戦の終結、地域紛争の激化とグローバル化への流れまでを包括的にとりあげる。		・戦後世界は冷戦の開始とその激化、1960年代の多極化、冷戦終結後の地域紛争の激化と推移するが、これらの経過を個々の事象を通じて理解する。 ・現代社会が直面する課題について考察する。	

※注 上記の指導計画を基本に、授業担当者がそれぞれの授業を行っている。

※注 上記の指導計画で取り上げていない内容については授業の中でトピックとして随時取り上げる。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
公民・公共	2	2	公共（第一学習社）	最新図説公共（浜島書店） 公共ノート（第一学習社）
科目の概要と目標	・人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
【第1編】 社会を作る私たち	青年期と自己形成 他者と共に生きる倫理	・青年期の意義について理解し、自己形成の課題として問題をとらえ、いかに生きるかを考える。 ・人間としてまたは日本人としてのあり方・生き方を考える。 ・職業や社会的活動において男女が共同して社会に参画することの重要性を理解する。		
【第2編】 現代社会と人間としてのあり方 生き方	民主主義の育て方 人権保障の発展と民主政治の成立	・民主主義の意義について理解し、一方で民主主義の課題について考える。 ・民主主義社会を生きる人間としてまたは日本人としてのあり方・生き方を考える。 ・民主主義社会を育てる上で市民が共同して社会に参画することの重要性を理解する。		
	現代の国家の民主政治 日本国憲法と国民生活	・民主政治の原理である基本的人権の尊重、人民主権、権力分立について、内容と意義を理解する。また、世界の主な政治体制について理解する。 ・日本国憲法の制定過程やその基本原理・政治機構について学ぶ。基本的人権の保障については判例等の学習を通して考察する。また、地方自治や選挙制度・世論の形成等について理解を深める。 ・未来を形成する主権者として政治参加の重要性や裁判員制度についての理解を深める。		
	国際政治の動向	・国際社会の成立や国際法の意義および国際連合の役割について理解する。また、戦後国際政治の特徴と課題について、冷戦構造、核兵器・軍縮問題、地域・民族紛争など具体的事例をふまえて理解する。 ・国際社会における日本や個人の果たすべき役割や責任を考える。		
	現代の経済社会と政府の役割	・資本主義社会の特徴を学び、金融政策や財政政策について理解を深める。また、基礎的な経済理論や具体的現象を理解し、現代の社会状況に当てはめて考察する。		
	経済社会のあり方と国民福祉	・日本経済の変容を財政危機などの今日的な問題と関連させながら理解する。また、消費者問題、公害防止や環境保全、雇用・労働問題、介護保険・年金などの社会保障問題などについて、人口減少社会や格差・貧困の拡大と結び付けながら考えることができる。		
	国際経済の動向	・貿易や為替など国際経済の基本的な内容と戦後の国際経済体制について理解する。また、グローバル化が進む現代経済の特徴について、各地域的経済統合形態や新興国、途上国の現状を比較しながら理解する。		
【第3編】 共に生きる社会をめざして	持続可能な社会のために	・現代社会が直面する課題のなかから自分で課題を設定し、自ら解決する活動を通して、主体的に考え公正に判断する能力と態度を養う。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
数学・数学 I	1	2	高等学校数学 I (数研出版)	4STEP数学 I + A (数研出版)
科目の概要と目標	数と式、2次関数、図形と計量、集合と論理及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学の良さを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
単元	学習内容		到達度目標	
数と式	整式とその加法・減法、整式の乗法、因数分解		式の見方を豊かにするとともに整式の加法・減法・乗法、および因数分解について理解を深め、公式などを利用して整式の展開や因数分解を能率よく計算できるようにする。	
	実数、根号を含む式の計算		数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解する。	
	1次不等式、絶対値を含む方程式・不等式		不等式とその解の意味を理解し、1次不等式の解法に習熟させ、大小に関する身近な問題の解決に活用できるようにする。	
集合と命題	集合と要素、命題と条件、逆・裏・対偶		- 図や表などを用いて、集合の包含関係など照合に関する基本的な事項を具体的な事象に基づいて理解させる。 - 集合の包含関係と関連付けて、必要条件、十分条件、対偶、背理法などを学習し、論理的に思考できるようにする。	
2次関数	関数とグラフ、2次関数のグラフ、2次関数の最大・最小、2次関数の決定		- 関数とそのグラフについて理解を深め、2次関数のグラフの概形を平行移動の考え方を利用して描けるようにする。 2次関数の最大・最小について理解を深め、最大値や最小値を求める具体的な問題の解決に活用できるようにする。 - 与えられた放物線のグラフや条件から、その2次関数を定められるようにする。	
	2次方程式と判別式、2次方程式と2次関数のグラフ、2次関数のグラフと2次方程式、2次関数のグラフと2次不等式		2次関数のグラフやx軸との位置関係を利用して、2次方程式や2次不等式の解について理解を深め、2次不等式の解法に習熟させる。	
図形と計量	三角比、三角比の拡張		三角比(正弦・余弦・正接)の概念を導入し、鈍角までの三角比の相互関係について理解を深め、直角三角形に着目させ、辺の長さに関する問題の解決に活用できるようにする。	
	正弦定理と余弦定理、三角形の計量、空間図形の計量		正弦定理、余弦定理や三角形の面積の公式について学習し、平面や空間における図形の辺の長さや角の大きさおよび面積などを求められるようにする。	
データの分析	代表値、四分位数と四分位範囲、分散と標準偏差、相関関係		- 統計の用語の意味やその扱いについて理解させるとともに、目的に応じデータを収集・整理し、データの傾向を的確に把握することができるようになる。 - 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味を理解させ、それらを利用してデータの傾向や相関を的確にとらえ説明できるようにする。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・物理基礎	1	2	新編 物理基礎(数研出版)	リードLightノート 物理基礎(数研出版) 物理実験テキスト
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動などの様々な物理現象やエネルギーへの関心を高め、観察・実験などを通して探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則、果たす役割を理解させ、科学的な見方や考え方を養おうとする。			
単元	学習内容		到達度目標	
電気	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー		- 電子の過不足により、物体が帯電することを理解する。 - 単位時間あたりに導線の断面を通過する電気量で電流の大きさが定義されることを理解する。 - 電気抵抗やオームの法則について学び、電気抵抗を直列・並列に接続した場合の電流の流れや電気抵抗の大きさについて考察できる。 - 電流を流した導線から発生するジュール熱と電気エネルギーについて考察できる。	
	電流と磁場 交流と電磁波		- 電流がつくる磁場について理解する。 - 直流と交流の違い、交流の電圧と電流の概念、交流の発生のしくみ、変圧器と送電線の利用としくみを理解する。	
波	波と媒質の運動 波の伝わり方		- 波の発生機構と媒質の役割、波の進み方を理解する。 - 波を表す要素である、振幅、周期、振動数、波長、伝わる波の速さ、位相について理解する。 - 波の重ね合わせの原理について学び、作図することで定常波や反射、干渉という現象を理解する。	
	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴		- 音の大きさ・高さ・音色・速さについて学び、音が「波」としての諸性質を示すことを理解する。 - 弦や気柱の固有振動が、定常波であることを学び、腹や節がどこになるかを理解する。	
熱	熱と熱量 熱と物質の状態 熱と仕事 不可逆変化と熱機関		- 熱伝導の際に、熱量の収支が一致するという熱量保存の法則を理解する。物質の状態が変化するとき、熱の出入りがあることを理解できる。 - 気体の内部エネルギーは熱運動による気体分子の運動エネルギーであることを学び、熱力学第一法則を理解する。	
物理学と社会	エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電		- エネルギーに関する基礎事項を幅広く取り上げ、新しいエネルギーについて関心をもつ。 - 放射線の影響について学び、科学的、定量的に判断ができるような基本的事項を理解する。	
	摩擦をコントロールする エネルギーを有効利用する 見えないものを見る		- 物理基礎で学ぶことが、日常生活やそれを支える科学技術と深くかかわっていることを理解する。 - 交通機関、家庭での日常生活、医療現場など身近な事例を具体的に知り、物理学の成果が数多くあることを理解する。	
運動とエネルギー	速度 加速度 落体の運動		- 物体の運動を調べるために、座標、速度、加速度を知ればよいことを、等速直線運動や等加速度運動の場合で理解する。 - 合成速度や相対速度について学習し、物理現象における相対性を理解する。	
	力とそのはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動 液体や気体から受ける力		- 力の合成、分解について理解し、力のつりあい式を立てることができる。 - 慣性の法則を理解させ、合力が0の場合、物体は等速直線運動をすることを理解する。 - 物体に力を加えた場合、加速度運動をすることを理解する。 - 圧力や浮力、空気抵抗について理解する。	
	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギーの保存		- 仕事の定義を理解する。 - 仕事をなしうる能力としてエネルギーをとらえ、運動エネルギーや位置エネルギーについて理解する。 - 保存力がはたらく場合に力学的エネルギーが保存されることを理解し、非保存力が仕事をする場合の力学的エネルギーの変化について理解する。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・化学基礎	2	2	化学基礎(数研出版)	文系:リードLight化学基礎(数研出版) 理系:セミナー化学基礎(第一学習社) 共通:化学実験テキスト
科目の概要と目標	・日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などを行い、基本的な技能を身につける。 ・観察・実験などを行い科学的に探究する力を養う。 ・物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
第1編 物質の構成と 化学結合 第1章 物質の構成	混合物と純物質 物質とその成分 物質の三態と熱運動		物質の種類や元素を主とした化学の基礎を理解することができる。 粒子の熱運動による物質の三態の変化について理解することができる。 混合物を分離する方法を選択し、操作することができる。	
第2章 物質の構成粒子	原子とその構造 イオン 周期表		物質が原子、分子、イオンから構成されていることを原子構造から理解することができる。 元素の化学的性質に規則性があることを理解できる。	
第3章 粒子の結合	イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 配位結合 分子間にはたらく力 高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶		構成元素の違いによる結合の違いを理解し、物質を化学式で表すことができる。 結合の違いによる物質の性質やその用途を理解することができる。 身近な物質の合成方法や利用例について理解できる。	
第2編 物質の変化 第1章 物質と 化学反応式	原子量・分子量・式量 物質質量 化学反応式と物質質量		質量、体積、粒子の数との間に一定の関係があることを知り、物質質量の概念を理解できる。 化学変化を化学反応式で示し、変化量を計算から求めることができる。 実験結果を表やグラフにまとめ、化学反応式との関連を結びつけることができる。	
第2章 酸と塩基の反応	酸・塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応と塩 中和滴定		酸、塩基とその水溶液の性質、変化を理解できる。 酸、塩基と日常の物質との関連を理解できる。 中和反応と塩の性質を理解することができる。 中和反応の実験を通して中和反応の定量的な計算をすることができる。	
第3章 酸化還元反応	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用		電子の移動を主とした酸化還元反応のしくみを理解することができる。 イオン化傾向や金属の酸化反応を観察し、理解することができる。 酸化還元反応の身近な例を知ることができる。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・ 生物基礎	1	2	新編 生物基礎(数研出版)	リードLight 生物基礎(数研出版) 二訂版スクエア最新図説生物(第一学習社) 生物実験テキスト
科目の概要と目標	生物体や生物の現象を通じて、現代生物学の基礎的な内容を、先端の生物学を織り交ぜながら学習する。基本的な考え方や法則を理解するとともに、生物に対する興味・関心を高める。観察や実験を通して自然を科学的に探究する能力と態度を育成する。			
単元	学習内容		到達度目標	
生物の特徴	1 生物の多様性と共通性 2 エネルギーと代謝 3 呼吸と光合成		- 生物学を学習するうえで重要な視点である生物の多様性と共通性について理解できる。 - 多様な生物にも細胞構造を持つなど共通性があること理解し、その構造と細胞小器官の働きについて説明することができる。 - 共通性は共通の祖先を持つことに由来することを理解する。 - 酵素のはたらき、光合成や呼吸の学習を通して、代謝によってエネルギーを取り出していることを理解できる。 - 葉緑体とミトコンドリアが進化の過程で細胞内共生によって成立したことが説明できる。	
遺伝子とそ のはたらき	1 遺伝情報とDNA 2 遺伝情報の複製と分配 3 遺伝情報の発現		- 遺伝子の本体であるDNAについて、構造および、遺伝情報は塩基配列にあることを理解できる。 - 転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について習得する。 - 遺伝情報は正確に複製され受け継がれていくこと、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことを理解できる。	
ヒトの体内環境 の維持	1 体内での情報伝達と調節 2 体内環境の維持のしくみ 3 免疫のはたらき		- 動物の体内の細胞にとって、体液は環境(体内環境)であり、それを一定に保つしくみ(恒常性)があることを理解できる。 - 腎臓と肝臓の役割とはたらきについて理解できる。 - 体内環境を保つためにはたらく、循環系・内分泌系・自律神経系・免疫系について学習し理解できる。 - ヒトの免疫系について学習し、そのしくみにはたらく細胞や役割を理解する。また、免疫を利用した医療や免疫に関する疾病について理解できる。	
植生の多様性 と生態系	1 植生と遷移 2 植生の分布とバイオーム 3 生態系と生物の多様性 4 生態系のバランスと保全		- 植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解できる。 - 地球上には様々なバイオームが展開し、そのバイオームは主に気温と降水量によって決まることを説明できる。 - 生態系の成り立ちや物質循環とエネルギーの流れについて理解する。そのうえで、生態系はそのバランスが保たれていることを物質とエネルギーの流れから説明できる。 - 地球レベルの環境問題について理解し説明できる。またそのことから、自然環境の保全の大切さを理解できる。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材
理科・地学基礎	2	2	高等学校 地学基礎(数研出版)	リードα 地学基礎(数研出版)
科目の概要と目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身につけ、科学的に探究する力を養う。また、地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与する態度を養う。			
単元	学習内容	到達度目標		
第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 1 地球の形と大きさ 2 地球の構造	地球の大きさの測定 地球だ円体 地球内部の層構造 リソスフェアとアセノスフェア	・エラトステネスが地球の大きさを測定した方法を理解することができる。 ・偏平率から、地球がほぼ球形であることを理解することができる。 ・地球内部は、地殻・マントル・核に分けられることを理解することができる。 ・リソスフェアとアセノスフェアの分類を理解することができる。		
第2章 プレートの運動 1 プレートテクトニクスと地殻変動 2 プレート運動のしかた	プレート境界 プレートの運動と地質構造 変成作用と変成岩 過去と現在のプレート運動	・プレート境界では大地形や地質構造が形成されることを理解することができる。 ・プレート境界やマグマの周囲で変成作用が生じることを理解することができる。 ・過去と現在のプレート運動の証拠について理解することができる。		
第3章 地震 1 地震 2 地震の分布 3 地震災害	地震発生のしくみ 震度とマグニチュード 地震波 プレート境界で発生する地震 地震による被害	・地震発生のしくみを理解することができる。 ・震度とマグニチュードの違いを理解することができる。 ・観測された地震波から震源を求める方法を理解することができる。 ・地震の震央分布とプレート境界の図から、地震とプレート運動の関係を理解することができる。 ・液状化現象や津波などの地震災害の発生原因を説明できる。		
第4章 火山 1 火山活動 2 火成岩 3 火山がもたらす恵みと災害	火山噴火のしくみ 火山ができる所 火山岩と深成岩 火山がもたらす恵み、火山災害、火山噴火の予知と対策	・火山噴火のしくみや火山噴出物について理解することができる。 ・火山の分布はプレート境界に多いことを理解することができる。 ・火山岩と深成岩の構造や成因の違いについて理解することができる。 ・火山が人間にもたらす恵みや災害について理解することができる。 ・火山災害に対する予測や防災の取り組みについて、ハザードマップなどを用いて説明できる。		
第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 1 堆積作用と堆積岩 2 地層の形成	堆積の過程 続成作用と堆積岩 地層	・風化、侵食、運搬、堆積の一連の流れを理解することができる。 ・堆積岩の形成過程と種類について理解することができる。 ・地層の重なりや変形のしかたから、地層の形成過程を推定できることを理解することができる。		
第2章 古生物の変遷と地球環境 1 化石と地質年代の区分 2 古生物の変遷	化石 地層の対比 地質年代の区分のしかた 先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代	・化石を用いて地層の年代や地層が堆積した環境を推定できることを理解することができる。 ・地質年代の区分のしかたを理解することができる。 ・古生物の変遷と地球環境の変化との関係について理解することができる。		
第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 1 大気の構造 2 地球全体の熱収支	大気の組成 大気の層構造 雲の形成 可視光線と赤外線 地球が受ける太陽放射 地球のエネルギー収支	・大気の組成と気圧について理解することができる。 ・大気の層構造と各層の特徴を理解することができる。 ・雲ができるしくみを理解することができる。 ・地球は太陽放射を受け取るだけでなく、赤外線を放射していることを理解することができる。 ・地球全体のエネルギー収支が釣りあっていることを理解することができる。		
第2章 大気と海水の運動 1 大気の大循環 2 海水の運動 3 日本の天気と気象災害	大気と海洋の熱輸送 低緯度地域の大気循環 中・高緯度地域の大気循環 海洋の表層と深層をめぐる循環 地表の高気圧と季節風 四季の天気と気象災害	・大気や海洋が低緯度から高緯度へ熱を輸送していることを理解することができる。 ・低・中・高緯度それぞれに大気循環が存在し、各地域の気候を特徴づけていることを理解することができる。 ・海洋表層に海流が生じるしくみと、海流が低緯度から中緯度への熱輸送を担っていることを理解することができる。 ・地表の高気圧と季節風の関係を理解することができる。 ・各季節で発生しやすい気象災害の特徴を理解することができる。		
第4編 地球の環境 第1章 地球の環境と日本の自然環境 1 気候の自然変動 2 人間活動による環境変化 3 日本の自然環境	エルニーニョとラニーニャ 火山噴火と気候 地球温暖化、オゾン層破壊 砂漠化、酸性雨 地球環境システム 自然災害	・エルニーニョのしくみと、それが地球規模に影響を及ぼすことを理解することができる。 ・大規模な火山噴火が気候に影響を及ぼす可能性があることを理解することができる。 ・地球温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、酸性雨の起こるしくみと、その影響や対策について理解することができる。 ・地球環境システムに見られるフィードバックについて理解することができる。 ・土砂災害は、地震や火山噴火、大雨のいずれによっても起こることを理解する。		
第5編 太陽系の宇宙 第1章 太陽系と太陽 1 太陽系の天体 2 太陽 3 太陽系の誕生と現在の地球	地球型惑星と木星型惑星 太陽系の小天体 太陽の表面と外層 太陽の誕生 惑星の形成と地球の進化	・太陽系の惑星の特徴や、地球型惑星と木星型惑星の違いについて理解することができる。 ・太陽系の小天体の種類を理解することができる。 ・太陽表面の様子やエネルギー源について説明できる。 ・太陽の誕生と惑星の形成、地球の進化を理解することができる。		
第2章 宇宙の誕生 1 宇宙の誕生	宇宙のすがた 宇宙の誕生	・恒星や銀河の特徴について理解することができる。 ・銀河系の構造と、太陽系の位置を理解することができる。 ・ビッグバンによる宇宙の誕生から、太陽や地球の誕生までの過程を説明できる。		

教科・科目		対象学年	単位数	教科書	補助教材等
保健体育・体育		1	3	現代保健体育(大修館)	
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。そして、からだの調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を身につける。また、運動の特性を理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を理解できる。				
単元	学習内容	到達度目標			
体育理論	運動技能の構造と運動の学び方	運動技能を構造的に理解できるとともに、上達課程と程度を把握する方法を理解できる。また、自己の能力に応じて運動に親しむための学び方について理解できる。			
体づくり運動	体ほぐしの運動	自分や仲間の体や心の状態に気付いたり、日常生活での身のこなしや体の調子を整えるとともに、精神的なストレスの解消に役立てたり、仲間と豊かにかかわることの楽しさを体験することができる。 ・スイッチ・オン・ムーブ、協力運動、ウォーク&ジョグ、ペアストレッチング、ほか			
	体力を高める運動	各種の運動に関連する体力及び健康に関する体力の向上を図ることができる。 ・パワー・レジスタンス・スピード系トレーニングほか、ストレッチング			
陸上競技	短距離走 リレー 障害走(ハードル) 持久走 投てき	自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりする。また、互いに協力して練習や競技を行うとともに競技会の企画や運営をすることができる。			
器械運動	マット運動	自己の能力に応じて、回転系や巧技系の基本的な技を学習し、条件を変えた技、発展技を組み合わせ演技することができる。			
球技	バレーボール バスケットボール サッカー ハンドボール バドミントン 卓球	チームの課題や個人の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームをする。また、チームにおける自己の役割を自覚して、互いに協力して練習やゲームができるようにするとともに、チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指し、計画的に練習したり、ゲームを仕方を工夫することができる。 ①個人的技能(状況に応じたボールや用具の操作、ボールを持たないときの動き) ②集団的技能(組織的な攻防) ③課題練習(チームや種目ごとに課題を設定し取りくむ) ④ゲームと審判法(リーグ戦およびルール理解)			
武道・ダンス	剣道・柔道	わが国固有の文化として伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防をする。また、礼儀作法を尊重して練習や試合をすることができる。 ①基本動作 ②対人的技能 ③審判法および試合形式練習			
	創作ダンス フォークダンス	自己の能力に応じた課題をもって運動を行い、感じを込めて踊ったりみんなで楽しく踊ったりする。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、小作品を発表することができる。 ①基本運動(歩く、走る、跳ぶ、回転、ねじる、伸びる、縮む、緊張、解禁など) ②現代的なリズムのダンス(いろんなリズムに慣れる・・・ヒップホップ、エアロビクスダンス) ③即興(イメージを動きに変える) ④作品発表・鑑賞			

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材等
保健体育・体育	2	2	現代保健体育(大修館)	
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。そして、からだの調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を身につけ、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養う。また、運動の特性を理解し、自己の能力に応じた課題を設定して自ら解決できる。			
単元	学習内容	到達度目標		
体育理論	運動・スポーツの文化的特徴	運動技能を構造的に理解できる。そして、上達課程と程度を把握する方法を理解できる。また、自己の能力に応じて運動に親しむための学び方について理解できる。 ・スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方		
体づくり運動	体ほぐしの運動	自分や仲間の体や心の状態に気付いたり、日常生活での身のこなしや体の調子を整える。そして、精神的なストレスの解消に役立てたり、仲間と豊かにかかわることの楽しさを体験することができる。 ・スイッチ・オン・ムーブ、協力運動、ウォーク&ジョグ、ペアストレッチング、ほか		
	体力を高める運動	各種の運動に関連する体力及び健康に関する体力の向上を図ることができる。 ・パワー・レジスタンス・スピード系トレーニングほか、ストレッチング		
陸上競技	短距離走 リレー 障害走(ハードル) 跳躍(走り幅跳び) 持久走	自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めることができる。また、互いに協力して練習や競技を行うとともに競技会の企画や運営をすることができる。		
球技	バレーボール バスケットボール サッカー ソフトボール ハンドボール バドミントン 卓球	チームの課題や個人の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームをすることができる。また、チームにおける自己の役割を自覚して、互いに協力して練習やゲームができる。そして、チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指し、計画的に練習したり、ゲームを仕方を工夫できる。 ①個人的技能(状況に応じたボールや用具の操作、ボールを持たないときの動き) ②集団的技能(組織的な攻防) ③課題練習(チームや種目ごとに課題を設定し取り組む) ④ゲームと審判法(リーグ戦およびハンドリングナル、ルールを理解、競技会の開催)		
武道・ダンス	剣道・柔道	わが国固有の文化として伝統的な行動の仕方を重視しながら、相手の動きに対応した攻防をすることができる。また、礼儀作法を尊重して練習や試合をすることができる。 ①基本動作の確認 ②対人技能 ③グループ課題練習 ④競技会の企画と運営		
	創作ダンス フォークダンス	グループでテーマにふさわしいイメージをとらえ、個・群で対極の動きや空間の使い方に変化をつけて、作品を完成することができる。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、発表できる。 ①基本運動(さまざまなステップ・ターンなど) ②現代的なリズムのダンス(いろいろなリズムに慣れる・・・ヒップホップ、エアロビクスダンス) ③グループ作品作り(イメージを動きに変え、作品にまとめる) ④作品発表・鑑賞		

教科・科目		対象学年	単位数	教科書	補助教材等
保健体育・体育		3	2	現代保健体育改訂版(大修館)	
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる。そして、からだの調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を身につけ、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を養うことができる。また、運動の特性を理解し、グループの能力に応じた課題を設定して自ら計画し、解決できる。				
単元	学習内容	到達度目標			
体育理論	豊かなスポーツライフの設計	自己の体に気付き、調子を整えたり、仲間と交流したりする体ほぐしの意義と行い方について理解できる。また、自己の体力や生活に応じて体力を高めるための課題を把握し、トレーニングの方法などその高め方について実践的に理解できる。 ・生涯スポーツの見方、考え方 ・ライフスタイルに応じたスポーツの仕方			
体づくり運動	体ほぐしの運動	自分や仲間の体や心の状態に気付いたり、日常生活での身のこなしや体の調子を整えるとともに、精神的なストレスの解消に役立てたり、仲間と豊かにかかわることの楽しさを体験することができる。 ・スイッチ・オン・ムーブ、協力運動、ウォーク&ジョグ、ペアストレッチング、ほか			
	体力を高める運動	各種の運動に関連する体力及び健康に関する体力の向上を図ることができる。 ・パワー・レジスタンス・スピード系トレーニングほか、ストレッチング			
陸上競技	短距離走 持久走	自己の能力に応じて運動の技能を高め、競技したり、記録を高めたりできる。また、互いに協力して練習や競技を行うとともに競技会の企画や運営をすることができる。			
球技	バレーボール バスケットボール ハンドボール ソフトボール バドミントン 卓球 サッカー	チームの課題や個人の能力に応じて運動の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームをすることができる。また、チームにおける自己の役割を自覚して、互いに協力して練習やゲームができる。また、チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指し、計画的に練習したり、ゲームを仕方を工夫することができる。 ①個人的技能(状況に応じたボールや用具の操作、ボールを持たないときの動き) ②集団的技能(組織的な攻防) ③課題練習(チームや種目ごとに課題を設定し取り組む) ④ゲームと審判法(リーグ戦およびハンドシグナル、ルールの理解、競技会や大会の運営方法・開催)			
ダンス	フォークダンス	自己の能力に応じた課題をもって運動を行い、感じを込めて踊ったりみんなで楽しく踊ることができる。また、互いのよさを認め合い、協力して練習したり、交流したり、発表することができる。			

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
保健体育・保健	1	1	現代高等保健体育（大修館）	現代高等保健ノート（大修館）
科目の概要と目標	・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 ・個人及び社会の生活における心身の健康・安全についての理解を深める。			
単元	学習内容	到達度目標		
1 現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復 15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズとその予防 18 健康に関する意思決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	わが国の現在の健康水準や健康問題の変化、および今日の健康課題について学ぶ。健康の成立要因をふまえて、自分なりの健康の捉え方について考える。 生活習慣病の種類とその要因について学ぶとともに、予防、早期発見、個人や社会の対策について考える。 わが国の死因の第1位となっているがんについて、その種類、原因、予防、治療について学ぶとともに、社会的対策の現状と必要性について考える。 運動、食事、休養・睡眠といった生活習慣が、生活習慣病の予防をはじめ、健康の保持増進に大きく関連していることを学ぶとともに、人々が適切なライフスタイルを身につけるための対策を考える。 喫煙、飲酒、薬物乱用が心身にもたらす健康問題と社会問題について学ぶとともに、それらの問題を改善するための、個人や社会の対策について考える。 おもな精神疾患と要因、予防と治療、また精神保健の今日的課題について学ぶとともに、精神疾患の適切なケアのための社会環境について考える。 新興感染症や再興感染症といった現代の感染症の現状と今日的課題、予防対策について学ぶ。また性感染症・エイズの実態と課題について、日本および世界の現状を学ぶ。また感染症予防について、個人や社会の対策について考える。 健康の保持増進のための意思決定・行動選択の重要性と影響する要因について学び、よりよい意思決定・行動選択の方法や工夫の仕方について学ぶ。また健康づくりには、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりが重要であることを学ぶ。		
2 安全な社会生活	1 事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形成 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	わが国の不慮の事故の実態と事故発生に関連する要因について学ぶとともに、安全な社会を形成するための個人や社会の対策について考える。また、交通事故の防止の観点から、運転者の責任、個人や社会の対策等について考える。 けがや急病に対する応急手当の意義や方法について学び、日常的な応急手当ができるようにする。また、心肺停止状態の人の命を救うために行う心肺蘇生法の意義と方法を学び、実習を通して正しく実施できるようにする。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
保健体育・保健	2	1	現代高等保健体育（大修館）	現代高等保健ノート（大修館）
科目の概要と目標	・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。 ・個人及び社会の生活における心身の健康・安全についての理解を深める。			
単元	学習内容		到達度目標	
2 生涯を通じる健康	1 ライフステージと健康 2 思春期と健康 3 性意識と性行動の選択 4 妊娠・出産と健康 5 避妊法と人工妊娠中絶 6 結婚生活と健康 7 中高年期と健康 8 働くことと健康 9 労働災害と健康 10 健康的な職業生活		各ライフステージの健康課題と社会からの支援について学ぶ。 思春期における体と心の変化、思春期に起こりやすい健康問題について理解を深める。また、性意識やその男女差を知り、適切な意思決定・行動選択について考える。 妊娠・出産に伴う健康問題について学び、健康的な妊娠・出産をするための対策と母子保健サービスの活用について考える。また、望まない妊娠の問題点を考えるとともに、適切な避妊法について学ぶ。 結婚生活を健康に過ごすための条件について学ぶとともに、健康な結婚生活に必要な考え方や行動について考える。 加齢による中高年の健康リスクを低下させるための対策について学び、高齢社会に必要な社会の取り組みについて考える。 働くことの意義や働くことによって起こる健康問題について理解を深める。また労働が原因で起こるけがや病気を防止するための対策について学び、健康的な職業生活を送る上での取り組みや余暇の活用の仕方を考える。	
3 社会生活と健康	1 大気汚染と健康 2 水質汚濁、土壌汚染と健康 3 環境と健康にかかわる対策 4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全性 6 食品衛生にかかわる活動 7 保険サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 医薬品の制度とその活用 10 さまざまな保健活動や社会的対策 11 健康に関する環境づくりと社会参加		大気汚染、水質汚濁、土壌汚染の健康への影響について学び、地球規模で起こっている環境問題について、人々の健康と関連づけて考える。 環境汚染による健康被害を防ぐためのしくみについて学ぶとともに、自分たちにできる環境対策について考える。また、ごみ処理、上下水道整備、し尿処理といった環境衛生活動の重要性と現状について学ぶ。 食品の安全に関する今日的課題と、食品の安全性を確保するしくみについて学ぶとともに、食の安全を守るために人々に求められる役割を考える。 わが国における保健・医療制度とさまざまな保健・医療サービスについて学ぶとともに、有効な活用の仕方を考える。 医薬品の種類と正しい使い方、および医薬品の安全性を守る取り組みについて学ぶとともに、有効な使用法について考える。 国内では人々の健康づくりのために自治体や行政機関による対策が行われており、さらに国の枠を超えた保健活動や対策がとられていることを学ぶ。また、ヘルスプロモーションの考え方にもとづく環境づくりや社会参加について考える。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
芸術・音楽Ⅰ	1	2	MOUSA1 (教育芸術社)	Music Note (啓隆社)
科目の概要と目標	音楽の幅広い活動を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに音楽文化についての理解を深め、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう (歌唱)	発声の方法を学び、楽曲の曲想を生かした歌い方を工夫する。		曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	
ポディー・パーカッションや“Cups”に挑戦しよう (器楽)	リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏する。		曲想と音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と協働しながら自己のイメージをもって歌唱表現や器楽表現を創意工夫する。	
「コード進行」をもとにメロディーをつくろう (創作)	コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなぎ方を試しながら、表したいイメージに合うメロディーをつくる。		音のつなぎ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し反復、変化などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して創作する。	
西洋音楽 (鑑賞)	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見を交換し理解を深める。		音楽を形づくっている要素やそれらの働きに注目しながら曲を聴き、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、根拠をもって曲や演奏を批評する	
表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう (器楽)	曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける。		曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わりを理解し、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けながらイメージをもって表現を工夫して演奏する。	
日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう (歌唱)	日本歌曲、イタリア歌曲ドイツ歌曲の独唱を通し、曲想と音楽の構造や歌詞文化的・歴史的背景との関わりを理解して表現を工夫する。		曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解し、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けながら、イメージをもって表現を工夫して歌う。	
オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう (鑑賞) (歌唱)	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う。		音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。	
日本の伝統音楽	我が国の伝統音楽のよさにふれる。		我が国の伝統音楽の歴史的背景や特徴を理解して鑑賞することができる。	
世界の諸民族の音楽	世界の諸民族の音楽の特徴を理解し、そのよさにふれる。		世界各地の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解し音楽表現の共通性や固有性について考えるとともに、イメージをもって表現を工夫して歌う。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
芸術・美術 I	1	2	高校生の美術I	
科目の概要と目標	・美術の幅広い創作活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ・生徒の興味・関心・能力等をふまえて題材を設定し、主体的、意欲的に取り組む態度を養う。 ・鑑賞や発表会を通して、表現の多様性や個性の違いを大切に思う心情を育てる。			
単元	学習内容		到達度目標	
表現・鑑賞/絵画 私の見付けた風景	学校の校内や校庭など身近な風景をよく観察し、そのよさや美しさを発見し、スケッチを基に視点など自分との関係を考えながら表現する。		・風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、鉛筆や絵の具などの特性を生かして表す。 ・身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練る。 ・風景から感じ取ったよさや美しさを捉えて表す創作活動に、主体的に取り組む。	
表現・鑑賞/絵画 創造を形に	主題を基に、コラージュの特性や効果を生かして現実にはあり得ない組み合わせを考え、創造の世界を表す。		・創造や空想したイメージなどを基に、形態や色彩、配置、組み合わせの効果を生かし、心の中の世界を表す創作活動に主体的に取り組む。	
鑑賞/映像メディア表現	映像鑑賞から表現の効果や特質を考える。		・光の動きを生かした映像の効果の美しさや全体のイメージを捉える。	
表現・鑑賞/ デザイン彫刻 学校やクラブ活動の マスコットキャラクターをつくる	・デザインの基礎を学習する。 ・教科書P88～81に掲載されたキャラクターを鑑賞し、その目的を考える。 ・用途に応じたキャラクターの構想 ・デザインする。 ・立体化する＝重心、バランス動きなどをイメージし、材料の特性を生かした創意工夫をする		・キャラクターの形や色、性格を表すポーズや持ち物などの効果や伝えたい情報やイメージなどを捉え、材料の特性を生かしながら、主体的に創作活動に取り組む。 ・粘土や紙などの素材の良さを工夫し効果的に表現する。 ・デザインの基礎で学んだ色彩の基礎や美の要素を製作に生かすことができる。	

教科・科目		芸術・書道Ⅰ	対象学年	1	単位数	2	教科書	書Ⅰ(光村図書)
目標		書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。						
評価の観点		① 知識・技能 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。		② 思考、判断、表現 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。		③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。		
学習の評価		・毎回の提出物(作品・学習プリント・レポート等)において①・②を評価する。 ・授業態度、授業での発言、鑑賞レポートなどにより②・③を評価する。 ・総合的に評価する。						
学期	月	単元	学習内容	学習目標				
1	4	書写から書道へ 1 漢字の書	漢字の変遷と書体	・書写と書道の違いを理解する。 ・漢字の書体の変遷やその背景にある歴史や文化に興味を持つ。				
	5	楷書	孔子廟堂碑・九成宮醴泉銘・雁塔聖教序・顔氏家廟碑・牛橛造像記	・楷書の臨書学習により基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学び、字形や構成を生かした表現を身につける。 ・各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞しそれぞれの特徴を捉えて書くことができる。				
	6	行書	蘭亭序・風信帖	・行書の特徴を理解し、書のよさや美しさを感じて捉える。 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身につける。				
	7	隸書 篆書	曹全碑 泰山刻石	・隸書、篆書の特有な字形や線質の特徴を理解し、用筆・運筆・結構法を身につける。 ・隸書、篆書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫して表現する。				
2	9	篆刻	姓名印を刻す	・用具・用材の特徴を知り、篆刻が芸術の作品として鑑賞の対象となる書表現の一つであることを理解する。 ・篆刻の手順と技法を理解する。				
	10	古典を生かした 創作	漢字の書の創作	・自ら表現したい語句を選び、古典に基づいた書体や書風を生かし表現形式や全体構成を工夫し表現する。 ・創作、鑑賞を通し主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組む。				
	11	2 仮名の書	成立と種類 蓬萊切 高野切第三種 寸松庵色紙 継色紙	・日本の文字の書の伝統と文化、仮名の成立、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解する。 ・仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身につける。 ・平安時代の古筆を参考に行の長短や高低、行間の広狭、全体の紙面構成について構想し工夫することができる。				
3	1	3 漢字仮名交じりの書	心に響く言葉を書く	・目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による技能を身につける。 ・自分の感性や受け止めた詩文などを題材に名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫することができる。 ・相互評価を通して表現を練り上げ、作品を完成しながら主体的・意欲的に創作活動に取り組むことができる。				
	2							
	3	生活の中の書	履歴書、表書きの書き方	・書写能力を向上させるとともに、目的や用途に即した効果的な表現の技能を身につける。 ・生活や社会における書の効用について考えることができる。				

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
英語コミュニケーションⅠ	1	3	ELEMENT English Communication I	サブノート、ハンドアウトなど
科目の概要と目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。			
単元	学習内容	到達度目標		
Lesson 1	Intercultural Relationships	・海外の高校生に日本の文化を紹介する計画についての会話を聞き取る。 ・Scidmore's Cherry Treesを読み、概要を理解する。 ・ワシントンの桜についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・アメリカからの交換留学生に、自己紹介のメールを書く。		
Lesson 2	Love Beyond Species	・ペットを友人に預ける際の注意点を聞き取る。 ・Christian the Lionを読み、概要を理解する。 ・ペットとして飼われたライオンの物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・Christian the Lionのストーリー・レポートを書く。		
Lesson 3	Contributing to Our Planet	・使い捨てのビニール袋とエコバッグのメリット・デメリットを聞き取る。 ・Bye Bye Plasticsを読み、概要を理解する。 ・身近な環境問題とその解決策について話し合う。 ・アメリカからの交換留学生に、ボランティアに参加するように誘うメールを書く。		
Lesson 4	Messages for World Peace	・博物館を訪れた生徒に先生がしている諸注意を聞き取る。 ・Twice Bombed, Twice Survivedを読み、登場人物の心情を理解する。 ・山口さんの願いを継ぐために自分たちがすべきことについてディスカッションをする。 ・平和について自分の意見を書く。		
Lesson 5	Respecting Each Other	・身近な人や物について話している会話を聞き取る。 ・Nobody's Perfectを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・野球の投手と誤審を行った審判についての物語を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・困難な状況にある友人を元気づける電子メールを書く。		
Lesson 6	Language and Culture	・ラジオニュースを聞き取る。 ・The Power of Wordsを読み、概要を理解する。 ・好きなアニメや漫画、映画について発表する。 ・日本文化が楽しめる場所を例示しながら説明する文章を書く。		
Lesson 7	Technology and Discoveries	・科学イベントのスケジュールと講演の内容を聞き取る。 ・Serendipityを読み、概要を理解する。 ・偶然の発見による発明についての英文を読み、その内容についてリテリングを行う。 ・電子書籍より紙の書籍を好む理由を対比しながら書く。		
Lesson 8	Standing Up for Human Rights	・人権を守る試みについての会話を聞き取る。 ・Playing the Enemyを読み、登場人物の心情をおさえ、概要を理解する。 ・ある人物の経歴についてまとめ、発表する。 ・Playing the Enemy で人権に関する状況がどのように変わったかを時系列に沿って書く。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
家庭・家庭基礎	2	2	家庭基礎-自立・共生・創造-（東京書籍）	2025生活学Navi（実教出版）
科目の概要と目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活や生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 今の生活を見つめ、生活における自立を目指し、男女が協力して家庭・地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。			
単元	学習内容	到達度目標		
自分らしい人生をつくる	人生をつくる 家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会	・各ライフステージの課題を理解する。 ・家族・家庭に関する基礎的な法律を学習し現在の動きを知る。 ・生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、職業選択も見直す。		
食生活をつくる	食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生 生涯を見通した食事計画 調理の基礎（調理実習） これからの食生活	・日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について理解する。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・食生活の現状を把握し各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。		
経済生活を営む	職業生活を設計する 家庭の経済生活 現代の消費社会 消費者の権利と責任	・消費行動における自分の意志決定の重要性を理解する。 ・キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し消費者として適切な判断ができる。 ・現代の消費生活と環境のかかわりを理解し、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活の工夫ができる。		
ホームプロジェクト	ホームプロジェクトの計画・実践と発表	・生活の中から問題点を見つけ、その改善法を考え、実践する。 ・実践の成果を発表する。		
衣生活をつくる	被服の役割を考える 被服を入手する 被服を管理する これからの衣生活	・衣生活の問題点を把握する。 ・被服の機能、被服材料、被服管理等の基本的な知識を理解する。 ・基本的な技術を身につけ、日常の被服管理ができる。		
高齢社会を生きる	高齢者を理解する 高齢者の心身の特徴	・高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。		
共に生き、共に支える	私たちの生活と福祉 社会保障の考え方	・社会保障制度の概要がわかり、地域福祉等に関心をもつ。		
子どもと共に育つ	子どもの育つ力を知る 親として共に育つ これからの保育環境	・子どもの育つ力と発達段階を知る。 ・親の役割の重要性、子育てに関する社会的支援について理解する。		
住生活をつくる	住生活について考える 住生活の計画と選択 これからの住生活	・住居の機能や間取りの基礎知識を学ぶ。 ・将来にかけての住生活のあり方を考える。		
生活を設計する	生涯を見直す	・今までの学習を踏まえ、生涯の生活設計に必要な要素を考える。		

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	補助教材
情報・情報Ⅰ	1	2	最新情報Ⅰ(実教出版)	最新情報Ⅰ 学習ノート (実教出版)
科目の概要 と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。			
単元	学習項目	学習内容や学習活動		
情報社会	情報社会と情報 情報の特性 情報のモラルと個人に及ぼす影響	・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。		
情報社会の法規と権利	知的財産 情報の利用と公開 個人情報の保護と管理	・知的財産権について理解する。 ・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。		
情報技術が築く新しい社会	社会の中の情報システム 情報技術と課題解決	・社会の中で利活用されている情報技術について理解する。 ・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法をについて考える。		
メディアとコミュニケーション	メディアの発達 メディアの特性 コミュニケーションの形態 インターネットのコミュニケーション	・メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。		
情報デザイン 情報デザインの実践	社会の中の情報デザイン 情報デザインの工夫 文書の作成 プレゼンテーション Web ページ	・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・Web ページ作成の方法について理解する。		
情報システムの構成	コンピュータの構成と動作 ソフトウェアとインターフェース	・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。		
情報のデジタル化	アナログとデジタル 2進数と情報量 演算の仕組み 数値と文字の表現 数値の計算 音声の表現 静止画と動画の表現 情報のデータ量	・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。		

		・ 音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・ 静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・ 情報のデータ量を小さくする方法について理解する。
情報通信ネットワーク	ネットワークの構成 情報通信の取り決め Web ページとメールの仕組み 転送速度とデータ圧縮	・ 情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・ Web ページとメールの仕組みについて理解する。 ・ ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。
問題解決	課題解決 問題の発見 問題の明確化 解決案の検討 解決案の決定 解決案の実施と評価	・ 問題解決の手順について理解する。 ・ 問題の発見の方法について理解する。 ・ 音問題を明確化する方法について理解する。 ・ 解決案を検討したり, 整理・分析したりする方法について理解する。 ・ 合意形成を目指した解決案を決定する方法について理解する。 ・ 実行した解決案を評価する方法について理解する。
データの活用	データの収集と整理 データ分析と表計算 データの可視化 データ分析の手法 データベースとは	・ データを収集したり, 整理したりする方法について理解する。 ・ 表計算ソフトの活用方法について理解する。 ・ データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。 ・ データ分析の手法について理解する。 ・ データベースの種類とその仕組みについて理解する。
モデル化	モデル化とシミュレーション モデルの分類 モデルの手順・手法	・ モデル化の意味について理解する。 ・ モデル化の分類について理解する。 ・ モデル化する手順と方法を理解し, 様々なモデルを作成する。
シミュレーション	シミュレーションの実際 モンテカルロ法 モデル化とシミュレーションによる問題解決	・ シミュレーションの意義について理解し, 確率的モデルのシミュレーションを行う ・ 問題解決のためにシミュレーションを活用する。
プログラミング	アルゴリズムとその表記 プログラミング言語 プログラミングの方法	・ アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・ プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ・ 変数を使用したプログラムを作成する。